

産地戦略

実施期間 令和7年度

実施主体 にかほ市
都道府県 秋田県
対象地域 にかほ市
対象品目 ねぎ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

にかほ市のねぎ栽培は砂土の畑と水田転換畑で行われており、基肥にプラスチック被覆肥料を使用する施肥体系である。今後、約200haの水田がほ場整備事業により1ha前後の大区画化され、農業法人が主体となってねぎが大規模に栽培される。当該地区の地域計画にもねぎ等の高収益作物の推進を図る旨が記載されており、計画実現のためにも環境に配慮した栽培技術と作業効率を高めて、栽培管理が適期に行うことができる栽培体系の確立を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名			栽培マニュアルに記載のとおり。										

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名			栽培マニュアルに記載のとおり。										

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.8	▶ 10	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 10	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.6	▶ 10	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 10	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料主体の施肥体系	▶ 有機質資材の施用	化学肥料の使用量の削減
環境	プラスチック被膜肥料を主体とした基肥	▶ 硫黄被覆肥料の活用	プラスチック被覆肥料の使用量の削減
省力	耕起、溝掘、施肥、定植の4工程を実施	▶ 自動操舵システム付きトラクターを用いた耕起・溝掘・施肥・定植同時作業機の活用	定植までの作業工程を4から1に削減
省力	セット動噴や背負い式動噴による農薬散布	▶ 農業用ドローンの活用	農薬散布作業の労働時間の縮減、作業の効率化
省力	歩行型管理機による1畝ずつの土寄せ	▶ 自動操舵システム付きハイクリアランストラクターと3連カルチの活用	土寄せ作業の効率化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量削減 (kg/10a)	100	▶ 90	
環境	プラスチック被覆肥料の使用量削減 (kg/10a)	100	▶ 0	
省力	耕起、溝掘、施肥、定植の工程数 (工程)	4	▶ 1	
省力	農業用ドローンを活用した栽培面積 (ha)	0	▶ 10	
省力	土寄せ作業に多連カルチを活用した栽培面積 (ha)	0	▶ 10	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培講習会等でグリーンな栽培体系の必要性や導入効果を周知するとともに、省力化に資する作業機械の導入では補助事業を活用して導入コストを低減し、グリーンな栽培体系の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	ねぎ生産者	にかほ市	秋田県由利地域振興局	J A 秋田しんせい
役割	・グリーンな栽培体系の実践 ・環境に優しい技術・省力技術の導入を検討	・省力化機械の導入支援 ・産地戦略の実績とりまとめ	・ねぎ栽培技術指導 ・グリーンな栽培マニュアルの見直し	・栽培講習会の開催 ・情報発信

その他